

02 不戦・核兵器廃絶

仏法の“生命の尊厳”の思想を根本に、核兵器廃絶、戦争体験の継承等、世界平和の実現を目指す活動を推進しています。



核兵器廃絶への取り組み

創価学会は核兵器廃絶を社会的使命と捉え、長年、草の根の核兵器廃絶運動に取り組んできました。近年では、2021年1月に発効した「核兵器禁止条約」の成立過程において、市民社会の一員として、またICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)の国際パートナーとして議論に参画。条約の採択と発効に向けて尽力しました。女性平和委員会もそれに呼応し、活動を展開しています。

略年表

1975 ▶

1975.1

青年部の核兵器廃絶1,000万署名を池田大作・第3代会長が国連事務総長へ提出。
池田会長、創価学会インタナショナル(SGI)会長に就任

1976.6

青年部による全国縦断の反戦・反核展始まる

1980 ▶



1,000万署名を国連事務総長へ提出

1978.5

池田SGI会長、第1回国連軍縮特別総会に寄せて「核軍縮及び核廃絶への提唱」を発表



第2回国連軍縮特別総会(1982年)

1985 ▶

1982.6

池田SGI会長、第2回国連軍縮特別総会に寄せて「軍縮及び核兵器廃絶への提言」を発表。
ニューヨークの国連本部で、「核兵器—現代世界の脅威」展(国連広報局、広島・長崎市と共催)を開幕。
ソ連、中国など核保有国を含む世界24カ国39都市を巡回した



「核兵器—現代世界の脅威」展(国連本部)

1983.1

池田SGI会長、「平和と軍縮への新たな提言」以後、40年以上にわたり毎年「平和提言」を発表

池田SGI会長の核軍縮を中心とした平和活動への貢献に対し、国連事務総長より「国連平和賞」が授与された



モスクワ展で挨拶する池田SGI会長(1987年)

1988.5

池田SGI会長、第3回国連軍縮特別総会に寄せて「全面軍縮へ世界的潮流を」を発表

2007

「核兵器廃絶への民衆行動の10年」キャンペーンをスタート。ICANの国際パートナーとして活動開始



広島で開幕(2012年)

2012

ICANと共同制作した「核兵器なき世界への連帯」展が開幕。世界巡回を開始



2018 ICAN事務局長が青年部と交流

2015

広島で「核兵器廃絶のための世界青年サミット」を開催

2017

「核兵器禁止条約交渉会議」(第1会期、第2会期)で作業文書を提出。※7月7日「核兵器禁止条約」採択

ICANがノーベル平和賞を受賞

2020

核兵器廃絶を求める「ヒバクシャ国際署名」を支援(2021年1月に国連へ提出)

署名運動

「ヒバクシャ国際署名」に協力

2016年3月、平均年齢80歳を超える被爆者の訴えを受け、「ヒロシマ・ナガサキのヒバクシャが訴える核兵器廃絶国際署名」がスタート。同年7月、署名推進のための連絡会が設置され、創価学会平和委員会も参加。

女性平和委員会と青年部が推進した

署名は全国で40万2,301筆にのぼり、2021年1月に国連に提出されました。(オンライン署名数と広島県推進連絡会・長崎原爆被災者協議会への寄託分21万6,328筆は除く)



アボリション 2000—核兵器廃絶への署名運動

核兵器廃絶を目指す国際的な市民運動「アボリション2000」に協力し、日本で1,300万人の署名を集め（海外を含めると13,016,586人）、1998年10月に国連に提出しました。



核兵器廃絶 1,000 万署名

1975年1月、青年部が核兵器廃絶を求める1,000万署名を推進。池田大作・第3代会長がニューヨークの国連本部を訪問し、国連事務総長に直接提出しました。



国際会議への参加

核兵器禁止条約第1回締約国会議

2022年6月、ウィーンで開催された核兵器禁止条約第1回締約国会議に参加。並行して行われた「ユース締約国会議」においても、女性平和委員会のユース会議の代表が、イタリアの核兵器廃絶運動の団体「センツアトミカ(核兵器はいらない)」等と共に、「草の根の教育運動」をテーマにワークショップを行いました。また、締約国会議の場で発表された「ユース声明」の起草にも携わりました。



核兵器不拡散条約（NPT）再検討会議

2022年8月、ニューヨークの国連本部で開催された第10回NPT再検討会議に、女性平和委員会の代表が参加。池田SGI会長が同会議に寄せて発表した「核兵器の先制不使用」の誓約などを求める緊急提案を受け、各国の代表と「先制不使用」の誓約の必要性について語り合いました。また同会議では、SGIをはじめとする104団体が賛同署名した宗教間共同声明を発表。「核なき世界への祈りの日」として開催された宗教間集会でも、女性平和委員会メンバーが代表として、同声明を読み上げました。



宗教間共同声明を読み上げる

戦争・被爆体験の継承

高齢化が進む戦争体験者・被爆者から惨禍の記憶を聞き取り、平和の心を次世代へ継承しようと、さまざまな活動を続けています。

イベント

広島・長崎の取り組み

広島、長崎では、「原爆の日」を中心に被爆体験を継承する機会を設けています。広島では、「被爆体験を聞く会」を2004年から約20年間にわたり毎年開催。2020年よりオンラインで全国からも視聴できるよう工夫しています。長崎でも毎年「ピースフォーラム」を開催。子どもたちとその保護者らが、被爆遺構を歩いて巡る「ピースウォーク」などのイベントを継続的に行っています。



広島・被爆体験を聞く会



「ピースウォーク」で長崎原爆死没者追悼平和祈念館へ

沖縄の取り組み

沖縄青年部は、沖縄戦体験者が描いた「沖縄戦の絵」の巡回展を、1982年以降、県内47市町村をはじめ全国72都市で開催。これらの絵は沖縄戦の体験者が描いたもので、“島人”(しまんちゅ)の視点で戦争の実像をとらえた歴史的資料です。現在は複製パネル「沖縄戦の絵～島人 痛恨の記憶」を、平和学習教材として無償で貸し出しています。

2021年には新たに戦争体験者から聞き取りを行い、それをもとにした「沖縄戦の紙芝居」を制作。子どもにも分かる言葉を選び、持ち物や服装の細部にいたるまで丁寧に描いたもので、県内の小中学校などで平和学習に活用されています。



「沖縄戦の絵」のパネル



沖縄戦の紙芝居

草の根映写会

日本は唯一の戦争被爆国でありながら、多くの市民は被爆体験を聞く機会がありません。女性平和委員会は核兵器の非人道性を伝え、二度と使用させないとの思いを共有するため、全国各地で被爆体験の上映会を開催しています。特に2017年の年頭からは、国連での「核兵器禁止条約」の採択(同年7月)をあと押しして実施。さらに2021年の同条約の発効(同年1月)に向けて継続開催し、延べ41万人が参加しました。



和歌山県での映写会



終戦・被爆 70 年平和フォーラム

2015年7月、「終戦・被爆70年平和フォーラム」を開催。映像作家の田邊雅章氏を講師に招き、同氏が制作した記録映画「知られざるヒロシマの真実と原爆の実態」を公開しました。

同作品は、500人にのぼる被爆者の証言や資料分析を踏まえ、被爆前の「原爆ドーム」をはじめ、爆心地から半径1キロ圏内の街並みや暮らしをコンピューターグラフィックスの技術を用いて再現したものを。

原爆で何が失われたのかを訴えるとともに、被爆の実相を未来に継承する事業として、広島県や広島市等と共に、創価学会も制作に協力しました。



◀ こちらからご覧になれます



自らの被爆体験を語る田邊雅章氏



田邊氏の映像作品から。再現された原爆投下前の広島の街並み。右奥の円形の屋根が、のちに原爆ドームとなる産業奨励館

出版

戦争・被爆証言集

終戦・被爆75年(2020年)にあたり、広島、長崎、沖縄では、中高生を含む青年が聞き取り運動を実施。「同じ思いは二度とさせたくない」と語られる体験から、75年の重みを改めて学ぶとともに、「平和とは何か」を考える機会となりました。さらに、聞き取った証言と中高生の感想、被爆遺構の紹介も収録した書籍を発刊。平和学習教材として、図書館や小・中学校、高校などへ寄贈しています。



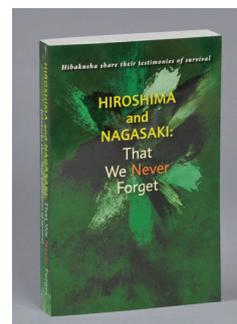
証言の聞き取り



広島・長崎・沖縄の証言集

『女性たちのヒロシマ』／被爆証言集（英語版）

2016年に、広島女性平和委員会が日英対照の被爆証言集『女性たちのヒロシマ』を発刊。2017年には、創価学会青年部がIPPNW（核戦争防止国際医師会議）の協力を得て、英語版の被爆証言集『Hiroshima and Nagasaki: That We Never Forget』を発刊しました。



◀ こちらから
ご覧になれます ▶



反戦出版シリーズ『平和への願いをこめて』

1981年、女性平和委員会は、全国各都道府県で戦争体験集の編纂を開始。10年間をかけて刊行された反戦出版『平和への願いをこめて』全20巻には、戦禍に苦しんだ女性達471編の手記が収められています。

また、子どもたちにも理解しやすいよう、ジュニア版6巻を刊行。ここでは、戦中・戦後の混乱の中で生死の境をさまよい、飢えにさいなまれた子どもたちの姿を、証言に基づき再現しています。

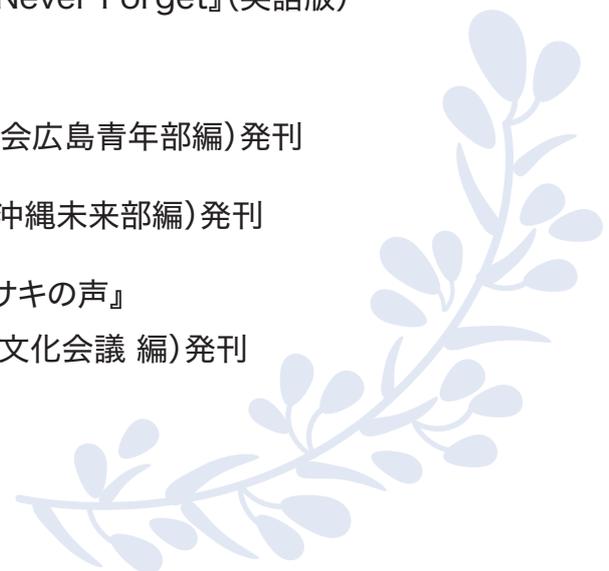
さらに、創価学会青年部が1974年から12年間かけて編纂した『戦争を知らない世代へ』全80巻には、3,400人におよぶ戦争体験者の証言が収められています。



反戦出版『平和への願いをこめて』20巻
およびジュニア版
青年部の『戦争を知らない世代へ』80巻
英語版

主な出版物

- 1981年8月 反戦出版『平和への願いをこめて』第1巻 発刊
- 1983年7月 『語ってよ、母さん 娘たちのルポルタージュ』発刊
- 1985年5月 『もう一つの被爆碑 在日韓国人被爆体験の記録』発刊
- 7月 反戦出版ジュニア版の発刊開始
- 青年部の反戦出版『戦争を知らない世代へ』80巻完結
- 12月 『NO MORE WAR 娘たちの見た戦火』発刊
- 1991年7月 反戦出版『平和への願いをこめて』全20巻完結
- 2003年6月 『命どう宝 沖縄戦・痛恨の記憶』(創価学会青年平和会議編) 発刊
- 8月 『舞え! HIROSHIMAの蝶々 被爆地からのメッセージ』
(創価学会青年平和会議編) 発刊
- 『平和への祈り 長崎・慟哭の記録』(創価学会青年平和会議編) 発刊
- 2014年4月 『男たちのヒロシマ』(日英対照)(創価学会広島平和委員会編) 発刊
- 2015年5月 『語りつぐナガサキ』(日英対照)(創価学会長崎平和委員会編) 発刊
- 11月 『家族から見た「8・6」』(日英対照)(創価学会広島青年部編) 発刊
- 2016年9月 『未来へつなぐ平和のウムイ』(日英対照)(創価学会沖縄青年部編) 発刊
- 11月 『女性たちのヒロシマ』(日英対照)(創価学会広島女性平和委員会編) 発刊
- 2017年9月 『Hiroshima and Nagasaki: That We Never Forget』(英語版)
(創価学会青年部編) 発刊
- 2020年10月 『75 未来へつなぐヒロシマの心』(創価学会広島青年部編) 発刊
- 『私がつなぐ沖縄のククル〈心〉』(創価学会沖縄未来部編) 発刊
- 11月 『大切な青年(きみ)と 未来につなぐナガサキの声』
(創価学会長崎青年平和委員会・女性平和文化会議 編) 発刊



映像

被爆証言 DVD (5言語版)

2009年4月、DVD「平和への願いをこめて—広島・長崎 女性たちの被爆体験」をICANと共同制作。女性平和委員会が、終戦・被爆60年(2005年)に取り組んだ「戦争・被爆体験の継承・記録運動」で取材・収録した代表の被爆体験を編集したものです。

(英語、スペイン語、フランス語、中国語、日本語に対応)

こちらからご覧になれます ▶



戦争証言 DVD

終戦・被爆60年の2005年夏、第2次世界大戦の戦火をくぐりぬけてきた、名もない女性たちの体験を未来に語り継ぎたいとの思いで、「戦争・被爆体験の継承・記録運動」を展開。各県のメンバーが訪ねた約180人の貴重な証言を映像に収めました。

その中から31人の証言をテーマ別に収録した戦争証言DVD「平和への願いをこめて—女性たちの戦争体験—」は、各地の主要図書館等に寄贈されたほか、各地のケーブルテレビでも放映されています。



◀ こちらからご覧になれます



展 示

15,000人のアンネ・フランク ～ テレジンの幼い画家たち展

第2次世界大戦中、ナチス・ドイツによって、旧チェコスロバキアの「テレジン収容所」に強制収容されていた15,000人の子どもたち。彼らを励まし続けた女流画家フリードル・ディッカーの生涯を子どもたちが残した絵画や詩とともに紹介しました。

二度とこうした悲劇を繰り返さないとの、平和への誓いを込めた展示は、1997年7月から全国17都市を巡回し、のべ45万人が鑑賞しました。

テレジン展のポスター
(企画・監修 野村路子氏)



女たちの太平洋戦争展

戦禍の中で青春時代を過ごした女性たちの現実はどうのようものであったかを、1980年代に生きる同世代の女性たち(10代～30代)が自らの眼で捉え直そうと、戦争体験者の証言や提供資料をもとに制作しました。

学業や仕事の合間を縫って、当時の生活を物語る千人針、防空頭巾、従軍看護師の制服、衣料切符をはじめ、証言、写真、物品を丹念に収集した展示は、戦争の真実を浮き彫りにしました。1981年8月、東京・三省堂書店で開幕後、全国8会場で開催しました。



山口・防府ショッピング・デパートで (1982年)



神奈川・横浜松坂屋で (1985年)



沖縄・那覇のダイハで (1987年)

青年の取り組み

全国の青年世代が、自分たちの未来を見据え、交流を重ねつつ、各地で平和運動を展開しています。

青年不戦サミット

1989年から、広島、長崎、沖縄の青年が集う「3県平和サミット」として毎年開催してきました。2015年に名称を「青年不戦サミット」に改め、2017年からは全国の代表が参加。青年による平和運動について協議し、平和への誓いを新たにしています。



2022年 神奈川で開催

世界青年サミット

2015年8月、世界23カ国の青年が広島に集結し、3日間にわたり開催したサミットでは、アフマド・アレンダヴィ国連事務総長青少年問題特使(当時)も講演。最終日には参加者の総意として、核兵器のない世界実現へ行動を呼びかける「青年の誓い」を発表しました。



平和意識調査

2005年、東京・福岡など全国15都市で、10代後半から30代の男女2,261人を対象に「平和アンケート」を実施。「平和意識」「核兵器」「戦争体験の継承」に関する設問への回答から分析を行いました。

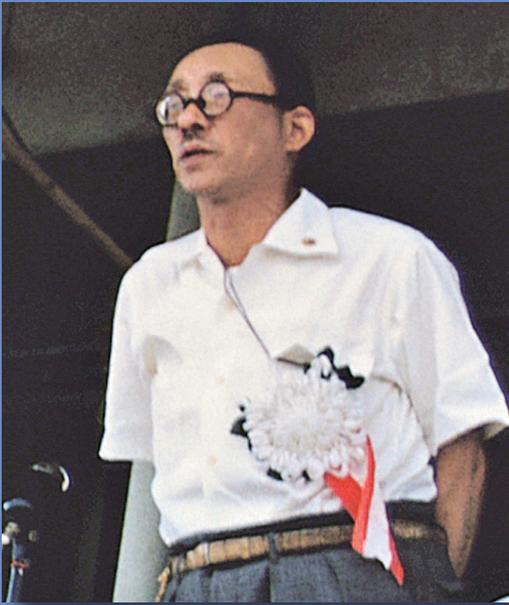
アンケート結果の詳細は、『いまからはじめる平和の一步 ピーステップ』(2005年8月発刊)に掲載されました。

2012年にも、全国の10代～30代の男女1,309人に、戦争・被爆体験や核兵器への問題意識等をテーマに「青年平和意識調査」を実施。

若い女性が青年層と対面形式で調査を行うことで、聞く側、応える側も問題を我が事として考える機会となりました。



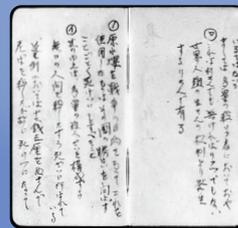
創価学会 平和運動の原点 — 原水爆禁止宣言



原水爆禁止宣言を発表する戸田第2代会長



5万人の青年が集った
横浜の三ツ沢競技場



宣言の草案が記されたメモ

創価学会の平和運動の原点は、戸田城聖 創価学会第2代会長による「原水爆禁止宣言」です。同宣言は、1957年9月8日、横浜・三ツ沢の競技場に集った約5万人の青年の前で、「遺訓すべき第一のもの」として発表されました。

当時は東西冷戦下、大国の核実験が繰り返されていました。戸田会長は、生命の尊厳を根底に捉える仏法者の立場から、核兵器は“絶対悪”であると断じ、“その奥に隠されている『爪』をもぎ取りたい”と訴えました。

核兵器問題の本質とは、自己の欲望のためには相手の殲滅をも辞さないという、核兵器を容認する思想そのものであり、それこそが、私たちが根源的な意味で戦うべき相手であることを明らかにしたのです。

この宣言に込められている精神は、核兵器の存在そのものを否定し全面的に禁止する「核兵器禁止条約」と、まさに響き合うものです。60年の時を経て同条約が採択され（2017年）、発効（2021年）したことは、「核兵器のない世界」に向けた大きな前進といえるでしょう。